

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

生活科の本質

生活科は、子どもの生活の全てが学習対象です。子どもは、生活科の活動や体験の過程で自分自身や身近な人々、社会、自然の特徴やよさ、それらの関わり方などに気付きます。そして、生活上必要な習慣や技能を身に付け、身近な人々や社会、自然を自分との関わりで捉えようとしています。その過程で、自分自身や自分の生活について考え、表現し、身近な人々、社会、自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとします。

個別的な事実を認識し、中学年以降の教科でそれらの個別の事実認識の一般化・普遍化につながるよう、五感を通したリアルな活動・体験をすすめます。それらを通して、人々、社会、自然、それらに関わり、表現し、探求しようとする態度を育てます。

生活科の目標及び育みたい探究力と省察性

生活科の目標	具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する。
育みたい探究力	身近な人々、社会、自然（ひと・もの・こと）に関わり、表現することで、具体的な個別の対象に対する認識を深める。
育みたい省察性	低学年期では、気付きの質を高めることが、省察性の土台となると考える。

生活科における探究的な学びのイメージ



探究力と省察性を育む指導

7つのR 生活科の目標を達成するため、次の5点（7R）に基づいた単元構成を行う。

- (1) リアルな体験（学習と生活の結合）“Real & Raw material”
- (2) 季節を感じる（季節の遊び・旬の食材・栽培や飼育）“Real time”
- (3) 人とかかわる “Relation & Receive”
- (4) 充実した表現 “Representation”
- (5) 異質性の認識（違いに気付き・社会や世界を知る）“Respect”

5感で感じるリアルな活動を通し、ひと・もの・ことと関わり、表現することで、探求力が高まり、省察性の土台となる気付きの質を高め、生活を豊かにしようとする態度を育てる。

研究の評価

上記における(1)～(5)に基づき、子どもが表現する過程や表現したもの、対象に向かう行動、授業における言葉、「見つけたよカード」などの記録、振り返りを用いて研究評価を行う。

中学年以上の学習と、どのようにつながったかを評価する。